


平成30年度 理科授業の略案 (5学年)

月日 (校時)	単元名	教材名
7月2日 (月) 2校時	台風と天気の変化	台風はどのように動くのかな？
本時のねらい (2/5時間目) ○台風が接近すると天気の変化の規則性が当てはまらないことや、予想するときの要点を見直すことができる。		
評価規準 思・表 観察や資料を基に、台風の進路と天気の変化との関係について考察し、自分の考えを表現している。		
学習過程	学習活動<○発問(学習リーダー)・予想される児童の反応>	留意事項・ 評価
【導入】 9:30	1 前時の振り返りをする。 ○前回の振り返りをノートを参考にして、つぶやいてください。	・前時の学習の振り返りをする。 ・ノートを見て振り返りを行う。
【展開】 課題把握 9:35	2 雲の映像地図を見せ、問題をとらえる。 ○この後、台風はどのように動くのだろう。 3 課題をとらえる。	・課題を個人読みして、主体的に取り組むことを意識づける。
台風の動きや天気の変化を予想して、台風の特ちょうを見つけ説明し合おう。		
・シラバス ・言葉わざ ・キーワード 自力解決 9:38	1人で予想(3分)・全体学習(12分)・結果(7分)・考察(5分)・まとめ(3分)・ふりかえり(3分) 理由をつけて話す 北・南・西・東・天気の変化・九州・四国・本州・北海道・中国 4 台風の動きや変化を予想する。 ・台風は日本には上陸せずに、韓国の方に行くのでは？なぜなら ・日本に上陸すると思う。どうしてかという ・北海道に台風は上陸しにくいって聞いたことあるけど・・・ 	・日本列島の白地図を基に、台風の進路を→を使って、自分の考えを持つようにする。 ・既習の学習(太陽や月の動き・天気の変化など)や班での話し合いを基に台風の進路を予想する時の理由を考えるように示唆する。
集団解決 9:42	5 予想した台風の動きや天気の変化について話し合いホワイトボードにまとめる。 ・九州の方から上陸して北海道まで移動していく。 ・西の方から移動して、北の中国の方へ動く。 ・日本には上陸せずに、そのまま韓国の方へ移動していく。	・1~5班は、1972年に発生した20号の台風進路を予想し、6~9班は、2016年に発生した10号を予想する。
全体学習 9:47	6 各班ごとでまとめたことを見て、台風の動きや天気の変化を話し合う。 1972年の20号は、南の方で発生し九州から北海道を通して東の方へ動いた。 2016年の10号は、南の方で発生し不規則な動きをして、東北地方と北海道を通して北の方へ動いた。	・各班で予想した台風の動きを、黒板に貼り出して、それぞれの班で予想した動きを全体で確認する。 ・進路はそれぞれ違う動きをするため、結果を見たとき、台風は、西から東への天気変化とは異なる、特有の動きをすることを捉えさせる。
考察 10:05	7 結果から台風の動きについて考察をする ○結果を見て、わかったことはありますか？ ・天気と違って、台風は不規則な動きをするので進路を予想しづらかったことがわかった。 ・南の方で発生し、西の方から動くところは一緒だった。	思 観察や資料を基に、台風の進路と天気の変化との関係について考察し、自分の考えを表現している。
台風は、日本の南の方で発生し、その多くは、初めは西の方へ動き、やがて北や東の方へ動く。		
【終末】 ふりかえり 10:10	9 本時の振り返りをする。	・学習して今後に生かしたいことを発表する。